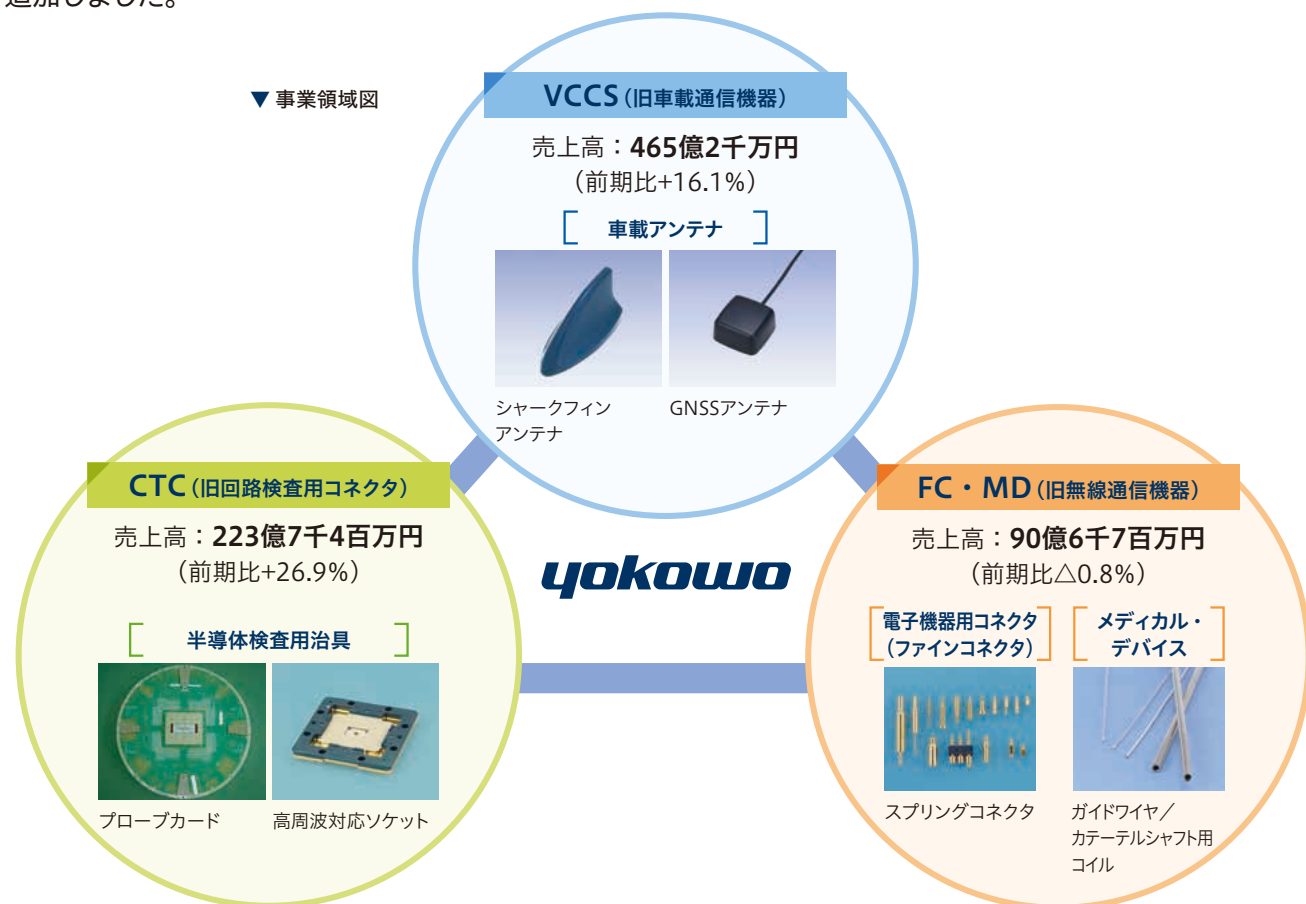


ヨコオの事業領域

当社グループは、微細精密加工技術を深化させながらアンテナ技術やマイクロウェーブ技術などさまざまな技術を導入し磨き上げてきました。アンテナやコネクタ、先端デバイス製品と事業領域を拡大し、現在では、VCCS (旧車載通信機器)、CTC (旧回路検査用コネクタ)、FC・MD (旧無線通信機器) の3セグメントで事業を展開しており、2023年度より新規事業の推進を中心としたインキュベーションセンターセグメントを追加しました。



VCCS
(Vehicle Communication Comfort & Safety)
主に自動車市場向けに、シャークフィンアンテナをはじめとする自動車用アンテナ(車載アンテナ)を製造しています。車載アンテナの基本ニーズである小型化・複合化・低背化・スマート化に応えるため、次世代の車載通信を支えるアンテナシステムをお客さまに開発・提案し続けることにより、安全・快適なモビリティサービスの実現に貢献します。

CTC
(Circuit Testing Connector)
主に半導体・電子部品検査市場向けに、前工程検査用プローブカード・後工程検査用ソケットを製造しています。半導体・電子部品などエレクトロニクス機器のデバイス検査において、微細化・高速対応ニーズに応えるべく、微細精密加工技術とマイクロウェーブ技術を駆使し、検査領域全工程におけるソリューションを提供しています。

FC・MD
(Fine Connector・Medical Device)
〈FC(ファインコネクタ)事業〉
主に携帯通信端末市場向けに、各種電子機器の小型化・省スペース化ニーズに応える微細な「スプリングコネクタ」をグローバルに開発・提供しています。
〈MD(メディカル・デバイス)事業〉
主に低侵襲医療機器市場向けに、OEMガイドワイヤ、カテーテルなどの微細精密部品およびアッセンブリ品の設計から開発・製造まで一貫したサービスを提供しています。

インキュベーションセンター
(2023年度よりセグメント追加)

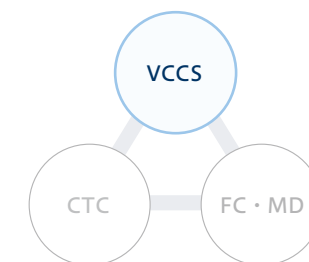
ADAS (先進運転支援システム) や自動運転、コネクテッドカーなどの新規市場に対応する「プラットフォーム事業」と、光通信市場に向けた高速伝送デバイス製品の開発を推進する「先端デバイス事業」からなるセグメントです。

VCCSセグメント

▼ VCCS連結売上高推移

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
38,183	39,264	37,292	40,081	46,520

(単位：百万円)



セグメント概要

VCCS (Vehicle Communication Comfort & Safety) セグメントでは、シャークフィンアンテナやGPSアンテナをはじめとする低周波から高周波までの全ての領域に対応した車載アンテナを、主に中国・ベトナム・フィリピンで製造しており、海外生産比率は90%を超えています。販売については、主に日系自動車メーカー向けに、国内のみならず米国やASEAN市場など、グローバルに提供しており、海外販売比率は約70%です。次世代の車載通信を支えるアンテナシステムのリーディングカンパニーとして、アンテナ技術をはじめとするコア技術の継続的な強化と、長期的に利益を生み続けるための収益構造の抜本的改革を推進します。

セグメント概況 (2022年度)

当セグメントの主要市場である自動車市場は、世界的な半導体不足・部品供給停滞などの影響が一部継続しているものの、第2四半期以降は半導体不足が徐々に緩和され、販売は改善の方向に向かって推移しました。地域別では、中国市場の販売台数が前期比で減少したものの、米国/ASEAN/日本国内市場において増加しました。このような状況の中、主力製品であるシャークフィンアンテナ/GPSアンテナをはじめとする自動車メーカー向けアンテナの海外販売は、円安効果および第2四半期以降の自動車生産回復などにより前期比で増加しました。この結果、当セグメントの売上高は46,520百万円(前期比+16.1%)と、前期比で増収となりました。セグメント損益については、コストアップ分の一部回収がありました。が、原材料価格・海上運賃の高止まりによるコストアップ、

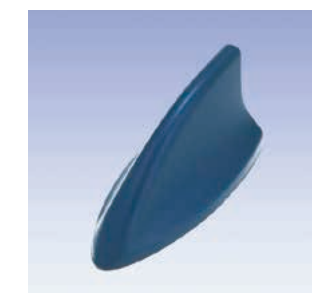
現地通貨高に伴う中国/ベトナム生産拠点での原材料費・労務費などの増加に加えて、第4四半期における低価格法適用による一過性の在庫評価切り下げなどにより、2,094百万円の損失(前期は1,443百万円の損失)となりました。

セグメント方針

今後は、CASE[※]などの新しい領域の進展やEV急増、温暖化ガス排出量削減といった事業環境の一大転換をチャンスと捉え、急拡大しているインド市場などの新たな市場へのアプローチを引き続き推進していきます。また、より先進的かつ付加価値の高い戦略製品の開発に取り組みつつ、製品原価から事業構造までの全面的な徹底改革により、安定収益事業を目指していきます。

さらに、資本効率性改善に向けた投資案件の厳選に加えて、省人化・自動化生産ラインの安定拡大に努めるとともに、中国工場からベトナム工場へのさらなる生産移管拡大、第3生産拠点となるフィリピン工場の早期戦力化(2022年4月から稼働開始)やアライアンスの積極活用により、収益構造再建と開発・生産体制の重層化を進めていきます。

※ CASE: 自動車の新しいトレンドであるConnectivity(接続性) / Autonomous(自動運転) / Shared(共有) / Electric(電動化)の頭文字を取った造語



シャークフィンアンテナ



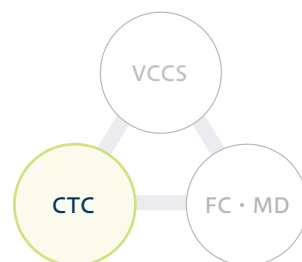
GNSSアンテナ (GPS、GLONASS、Galileoなど複数の衛星測位に対応)

CTCセグメント

▼ CTC連結売上高推移

(単位：百万円)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
9,138	12,832	13,242	17,625	22,374



セグメント概要

CTC (Circuit Testing Connector) セグメントでは、微細精密加工技術を駆使したコンタクトプローブ、および当製品を用いた半導体製造工程における前工程検査用プローブカード・後工程検査用ソケットを製造しています。日本とマレーシア、ベトナムに生産拠点を有し、海外生産比率は60%以上です。製品は半導体メーカーやファウンドリーを中心にグローバルに提供しており、海外販売比率は80%を超えています。

近年では、マイクロウェーブ技術も併せて活用した5Gデバイス検査用ソケットやMEMS加工技術を駆使した高周波電子部品検査用プローブカード (YPX) など最先端分野向けの製品ラインアップも拡充しています。

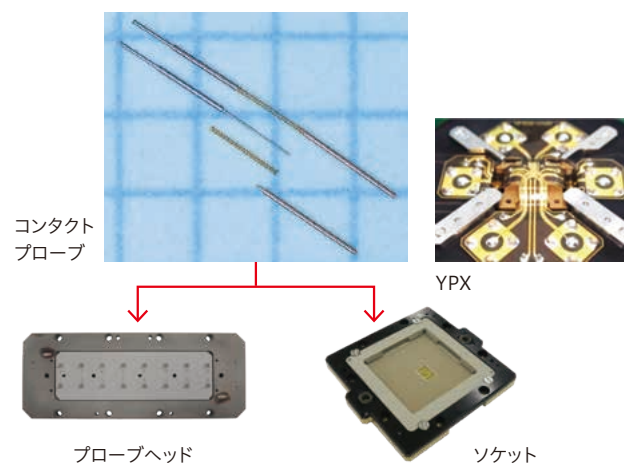
セグメント概況 (2022年度)

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、サーバー/自動車向けの需要が底堅く推移したことに加えて、半導体メーカーによる半導体不足解消に向けた供給能力拡大により上期は堅調に推移しましたが、下期以降はPC/スマートフォン向けの需要減少により急激に減速しました。このような状況の中、当社グループの主力製品である半導体後工程検査用治具の販売は、下期以降は減少したものの、ロジック半導体検査用ソケットなどの受注増および円安効果などにより、前期を上回りました。半導体前工程検査用治具の販売は、周辺機器を含めてワンストップでソリューションを提供するターンキービジネスが新機種立ち上げにより前期比で増加したことに加え、高周波電子部品検査用MEMSプローブカード (YPX) の販売も、受注増により前期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は22,374百万円 (前期比+26.9%) と、前期比で増収となりました。セグメント損益については、第4四半期において急激な受注減に伴う損益悪化があったものの、上期における増収に伴う増益に加え円安効果などにより、6,169百万円の利益 (前期比+26.6%) となりました。

セグメント方針

今後は、5G、IoT、車載、AIといった分野での半導体検査需要増を確実に取り込んでいく方針です。そのために、5G通信向けの高周波・高速信号検査市場をターゲットとした戦略製品の開発・投入、国内およびマレーシア工場における能力増強投資と2022年度下期に立ち上げた国内分工場およびベトナム工場の安定稼働、自動組立ライン構築・自動検査システム導入など効率化および合理化投資を進めていきます。また、半導体前工程検査領域でのターンキービジネス拡大に向けたさらなる本格的な体制整備を推進するとともに、半導体検査市場の需要回復に備えた生産体制抜本強化とBCP体制強化に加えて、さらなる高収益体制の構築と安定的な事業運営に努めていきます。

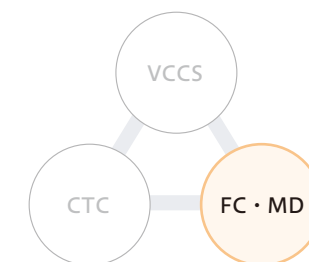


FC・MDセグメント

▼ FC・MD連結売上高推移

(単位：百万円)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
7,429	8,498	9,441	9,141	9,067



セグメント概要

当セグメントは、FC (Fine Connector) およびMD (Medical Device) の2事業で構成されています。

FC事業については、電子機器の着脱部分に対して簡易に接続可能なスプリングコネクタを日本、マレーシア、中国で製造しており、海外生産比率は80%以上です。製品は国内外の多種多様な電子機器メーカー向けに提供しており、海外販売比率は80%を超えています。

MD事業では、OEMガイドワイヤ、カテーテルなどの微細精密部品に加え、アッセンブリ品の設計から開発・製造までを富岡工場 (群馬県) で行っています。製品は国内の医療機器メーカーを中心に提供しており、海外販売比率は10%ほどです。

セグメント概況 (2022年度)

当セグメントの主要市場である携帯通信端末市場は、ウェアラブル端末が多様化・高機能化により今後の成長が期待されるものの、世界的な半導体不足の影響や景気悪化によりスマートフォンの出荷台数が低調となりました。POS端末市場は、物流/製造をはじめとする幅広い業界において、情報管理による業務効率化実現の観点から着実な成長を続けていましたが、世界的な景気後退に伴い需要が軟調傾向にあります。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするFC事業においては、顧客の生産調整などの影響により、ワイヤレスイヤホンなどウェアラブル端末向けの販売が減少したことに加え、POS端末向けの受注減などにより、売上高は前期を下回りました。

当セグメントに含めているMD事業については、主要顧客

向け部品販売が堅調に推移したことなどにより、売上高は前期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は、9,067百万円 (前期比△0.8%) と、前期比で減収となりました。セグメント損益については、FC事業における減収に伴う減益に加え、人民元高などによる中国生産拠点での労務費比率の上昇や事業構成変化などにより、664百万円の利益 (前期比△47.1%) となりました。

セグメント方針

FC事業では、コアコンピタンスの研鑽による競争優位性の確立と、当社らしさを生かした新たな顧客価値の創出によるコネクタソリューションプロバイダへの進化を目指します。多岐にわたる市場の再定義を行い、狙い目市場の特性に合わせた製品企画・拡販戦略により、高度なUX (User Experience) を提供していきます。

MD事業については、最先端の生産設備導入による微細精密部品の生産能力増強と、ガイドワイヤ/カテーテルアッセンブリ品の国内外への拡販推進によるさらなる事業成長を目指すとともに、プロダクト・ライフサイクルを通じたグローバル品質システムへの転換を図ります。また、日本国内のベンチャー企業の製品アイデアを具現化する製造パートナーとして、ベンチャーエコシステムの取り組みを強化し、先端医療分野における企画商品開発・開発型OEMサプライヤーとして、飛躍的な事業拡大を実現していきます。

